



内科から見た口腔内疾患 ～少し気になるポイントについて～

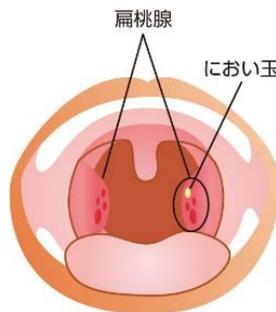


医療法人社団 秀皓会 理事長 船本 全信

少しずつ、秋の気配が感じられるようになってきましたね。急激な気温変化から、体調を崩す方が増えてきますのでご注意ください。

さて今回は、皆さんが一般的に遭遇しうる口腔内疾患を幾つかご紹介したいと思います。

1. 口臭 ヘリコバクター・ピロリ菌による慢性胃炎になると、口臭が強いことは古くから知られています。除菌により劇的に口臭は改善されます。もう一つ注意しておきたいのは、扁桃膿栓です。これは、口蓋垂（いわゆる、のどちんこ）の両脇にある扁桃腺の表面にぼつぼつとみられる「白い塊（におい玉）」のことを指します。この膿栓はつぶれると、非常に臭いにおいを放ちます。膿栓のできる扁桃は、リンパ球が集まっており細菌やウイルスなどをやっつける働きをしています。膿栓はそうした働きによって、倒された細菌やウイルスの死骸が含まれていることも臭いを放つ原因の1つとされています。ピンセットを使って取り除くと口臭が改善されます。家庭では、塩水を使ってよくうがいをすれば自然に取れることがあります。



2. 歯ぎしり、食いしばり 歯ぎしりの原因の多くは、ストレスによるもの。日中のストレスをうまく発散することができないまま就寝することで、歯ぎしりや食いしばりをしてしまいます。食事中に歯にかかる力は1kg程度なのに比べ、歯ぎしりは100kgにもなることがあるそうです。歯のひび割れや歯茎の弱りが起これば、虫歯になりやすくなります。歯ぎしりは、首や肩の凝り、頭痛を招くだけでなく、顎関節症になることもあります。ストレスが原因の場合、その緊張をほぐすことで、歯ぎしりを改善することができます。抑肝散加陳皮半夏・抑肝散といった漢方がその代表処方です。
3. 口内炎・舌炎・舌ガン 食べ物を嚙んでいる時に、舌・唇や頬の粘膜をかんだりすると、その後に痛くてしみる粘膜の潰瘍ができますよね。この場合、ビタミンB2・B6の内服とステロイド口腔軟膏の塗布ですぐに治ります。また、歯並びの異常や入れ歯の接触により、

(裏面へ続く→)

舌の炎症を繰り返して舌ガンになることもありますので、定期的に歯科の受診が必要です。しつこい舌の痛みには、舌ガンの事も考えてご相談ください。

4. 味覚障害 新型コロナウイルス感染で有名になった味覚障害ですが、味覚低下・消失だけでなく、異味症（いつもと味が違う）、自発性異常味覚（実際は何も口内にないのに味覚を感じる）、味覚過敏（味覚を強く感じる）、悪味症（食べ物に嫌悪感を感じる）などがあります。その原因は、舌にある味を感じる細胞をもつ味蕾（みらい）の障害で、主に亜鉛不足が関係します。鉄やビタミンが不足することで生じることもあります。その他、味蕾の障害は、舌炎・感冒ウイルスや全身疾患・薬剤が原因でおこります。また、味覚の末梢神経が障害される原因としては、神経疾患、手術や歯科処置などの医原性などがあります。中枢神経障害の原因としては、脳腫瘍、脳血管障害、頭部外傷が挙げられます。亜鉛等の欠乏症状であれば、補充療法で改善します。

5. 口腔乾燥症 シェーグレン症候群 口腔乾燥症は、何らかの原因で唾液の分泌量が少なくなり口が乾き、それが持続している状態です。原因で最も多いのは、薬剤の副作用ですが、とくに循環器用薬と精神科用薬が多く、これらと他の因子が重複すると、口腔乾燥を生じやすくなります。このため、ドライマウスでは全身疾患の既往や服用薬剤について詳しく調べる必要があります。全身疾患としては糖尿病や腎臓疾患、さらにシェーグレン症候群などがあげられます。シェーグレン症候群は自分の免疫細胞が涙腺・唾液腺を攻撃して破壊してしまう疾患です。

以上、皆さんがよく遭遇する口腔内疾患をご紹介しましたが、もしお困りの方がいらしたらお気軽にご相談ください。



酸素カプセル無料体験のお知らせ



新陳代謝促進・疲労回復・認知症予防・薄毛対策に効果的と考えられている、当院でも大好評の「高気圧」酸素カプセルですが、未体験の皆様には是非とも効果を実感して頂きたい、「お試し無料体験」をスタートします。

期間：令和6年6月1日～令和7年5月31日まで

手順：(月)～(土)の毎日1枠限定--ご希望日時をご相談ください

費用：無料（2回目以降は、通常通り¥3,000/30分）



◆ふなもとクリニック 〒663-8165 西宮市甲子園浦風町7-13 tel.0798-81-1192

◆ 居宅介護支援事業所

ふくろう

〒663-8165 西宮市甲子園浦風町6-20 1F デイ 3F 居宅

デイサービスセンター

tel.0798-40-9500(居宅) 0798-49-7670(デイ)

「ふくろうだより Vol. 98」第1版 2024/10/01 発行（次号は2024年12月初旬頃の予定です）